



福岡医発第 293 号 (地)

平成 31 年 4 月 22 日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会

会長 松 田 峻一良

(公 印 省 略)

麻しん患者の発生について (第 3 報)

平成 31 年 4 月 20 日、博多保健所管内の医療機関より「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「法」という。)第 12 条第 1 項の規定に基づく麻しんの発生届が福岡市に対してあり、同日に市保健環境研究所における検査の結果、麻しんの陽性が確定したことから、別添のとおり福岡市保健福祉局健康医療部保健予防課よりプレスリリースされました。

本プレスリリースでは、東保健所及び博多保健所が患者、家族及び医療機関に対し健康調査、疫学調査を実施し、二次感染予防の指導を行っており、患者の行動履歴等、詳細については調査中であるとしております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知の上、貴会会員に対し下記についてご留意いただき、麻しんの発生予防及び感染拡大防止にご協力いただくよう、周知方よろしく願いいたします。

記

1. 麻しん患者の診療に係る留意事項

- 麻しんは発症前日から発疹出現後 4 - 5 日頃まで感染力があるとされています。特に予防接種を受けていない接触者は感染のリスクが高くなります。潜伏期間は 10 - 12 日とされていますが、麻しんワクチンを受けた後に発症する修飾麻疹では、潜伏期間が延びることが知られています。
- 健康観察者が受診する場合は、事前に医療機関に電話連絡することとなっております。
- 発熱や発疹を呈する患者が受診した際は、麻しんの予防接種歴の確認を行うなど、麻しんの発生を意識した診療をお願いします。
- 麻しん患者(疑い含む。)の診療にあたっては、個室管理を行うなどの院内感染対策を実施してください。
- 麻しん患者を診断した場合は、臨床診断例や検査診断例にかかわらず法第 12 条第 1 項の規定に基づき最寄りの保健所へ、直ちに届けてください。なお、保健所から遺伝子検査のために検体提出を求められることがあります。

2. 予防接種について

麻しんの感染及び発症を予防するMRワクチンについては、現在、予防接種法に

基づく定期接種に必要な量が確保されていますが、任意接種の希望者が増加し不足することも懸念されるため、予防接種法に基づく対象者への定期接種を優先するとともに、任意接種を希望される方には、母子健康手帳等により接種歴の確認や抗体検査を優先するなどの対応をお願いします。

平成31年4月22日 15時00分現在
保健福祉局 健康医療部 保健予防課 担当：樋口，谷口，山本
TEL 711-4270（内線2061）

麻疹患者の発生について

平成31年4月20日、博多保健所管内の医療機関から麻疹疑いの報告があり、4月20日に麻疹陽性が判明しましたのでお知らせします。

1 患者

（1）年齢等

1歳、男児、福岡市東区在住
ワクチン接種歴なし

（2）経過

4月 3日 東南アジアより帰国
4月 9日 発熱
4月17日 博多区の医療機関Aを受診
4月19日 発疹が出現。博多区の医療機関Aを受診し入院。
4月20日 市保健環境研究所にて遺伝子検査を実施
遺伝子検査で麻疹陽性が判明

2 行政対応

東保健所及び博多保健所が患者、家族及び医療機関に対し健康調査、疫学調査を実施し、二次感染予防の指導を行っています。

なお、患者の行動履歴等、詳細については調査中です。

《市民の皆様へ》

- 症状（別紙参照）から麻疹が疑われる場合、事前に医療機関へ電話連絡の上、マスクを着用して医療機関の指示に従って受診してください。
- 受診の際には、感染を拡大させないように公共交通機関等の利用は控えてください。

《医療機関の皆様へ》

- 発熱や発疹を呈する患者が受診した際は、麻疹の予防接種歴の確認等、麻疹の発生を意識した診療をお願いします。
- 患者（疑い含む）は、個室管理を行う等、麻疹の感染力の強さを踏まえた院内感染対策を実施してください。
- 臨床症状等から麻疹と診断した場合には、速やかに保健所へ届け出てください。

お 願 い

- ※ 市政記者クラブの皆様におかれましては、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることがないように、格段の御配慮をお願いします。

麻疹（はしか）について

- 麻疹（はしか）は、麻疹ウイルスによる感染症です。
- 感染力がきわめて強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染すると言われています（インフルエンザでは1～2人）。
- ほぼ100%の人に症状が現れますが、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

《症状》

- 麻疹ウイルスに感染して10～12日後に、発熱や咳などの症状が現れます。
- 38℃前後の発熱が2～4日間続き、倦怠感、上気道炎症状（咳、鼻水、くしゃみなど）、結膜炎症状（結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど）が現れて次第に強くなります。
- 発疹が現れる1～2日前ごろに口の中の粘膜に1mm程度の白い小さな斑点（コプリック斑）が出現します。コプリック斑は麻疹に特徴的な症状ですが、発疹出現後2日目を過ぎるころまでに消えてしまいます。
- コプリック斑出現後、体温は一旦下がりますが、再び高熱が出るとともに、赤い発疹が出現し全身に広がります。
- 発疹出現後3～4日で回復に向かい、合併症がない限り7～10日後には主症状は回復しますが、免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹ると重症になりやすく、体力などが戻るのに1か月くらいかかることも珍しくありません。
- 麻疹に伴って肺炎、中耳炎、脳炎などさまざまな合併症がみられることがあります。特に脳炎は、頻度は低い（1000人に1人）ものの死亡することがあり、注意が必要です。

《感染予防とまん延防止のために》 ～一人ひとりが気をつけましょう～

- 麻疹は、感染力がきわめて強いことから手洗いやマスクのみでの予防はできませんが、予防接種（ワクチン接種）を行うことによって、95%以上の人が免疫を獲得し、予防することができます。
- 予防接種は、自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも有効です。
- 医療・教育関係者や、海外渡航を計画されている方は、麻疹の罹患歴や予防接種歴を確認し、明らかでない場合は予防接種を検討してください。
- 麻疹の予防接種歴がない方で、発熱、咳、鼻水、眼球結膜の充血等麻疹に特徴的な症状が現れた方は、事前に医療機関に電話で連絡し、マスクを着用の上、指示に従って受診してください。
その際、症状出現日の10～12日前（感染したと推定される日）の行動（海外の流行地や人が多く集まる場所へ行ったかどうか等）について、医療機関にお伝えください。

《麻疹の予防接種について》

～1歳になったら1回、小学校入学前の1年間にもう1回予防接種を受けましょう～

「生後12月から生後24月に至るまでの間にある者」及び「5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学の始期に達する日の1年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある者」は、予防接種法に基づく定期の予防接種を受けることができますので、未接種の方は早めの接種をご検討ください。

※ 接種を希望される方は、医療機関へお問い合わせください。

※ 定期の予防接種の対象者以外の方で、麻疹の予防接種を希望される場合は、予防接種法に基づかない任意の接種で受けることができます（費用は自己負担となります）。医療機関の医師にご相談ください。

- 麻疹の流行がみられる国に渡航される方は、予防接種をご検討ください。なお、海外の流行情報は検疫所のホームページ（<http://www.forth.go.jp/>）で確認することができます。